

## 竹取公園



馬見丘陵公園に隣接しており、美しく整備された公園内には、復元された竪穴式住居や高床式倉庫、多くの木製遊具などが点在、家族で楽しめる。

## かぐや姫



誰もが知る、かぐや姫のお話、「竹取物語」。平安時代前期に書かれた、日本最古の物語文学である。

昔、竹取の翁おきなと呼ばれるおじいさんがいた。ある日、一本の根元の光る竹を見つけ、切ってみると、中から小さな姫が現れた。おじいさんは姫を家に連れ帰り、おばあさんと大切に育てた。

三か月ほどたったころ、姫はすっかり麗しい乙女となり、その光輝く美しさは、たちまち噂となった。

そんな中、石つくりの御子みこ、右大

臣あべのみむらじなど、五人の名だたる貴公子が求婚に訪れた。

姫はこの五人に、中国にある火鼠ひげねの皮衣、龍の首飾りなどを探してくよう、それぞれに難題を出した。

だが、どれも実現しない。最後に天皇が宮廷に召そうとしたが、これも姫は応じなかった。

ある日、姫は涙ながらに言った。

「実は、私は月の世界の者。八月十五日の満月の夜に月へ帰らねばなりません」。

そうはさせじと、天皇は二千人もの兵士を送り、姫の家を固めさせた。やがて、その夜が来た。

百人もの天人たちが雲に乗って降りてきたが、なぜか、兵士たちは、戦おうとしても力が入らない。家の戸も自然に開き、姫の体もふわっと

外に出てしまった。姫は「せめて月夜には、月にいる私を偲んでください」と言い、月の明かりの中に消えていった。

＊

ところで、このかぐや姫の生まれ故郷が、実は奈良県北葛城郡広陵町とも言われている。物語には竹取の翁の名を「さぬきのみやつこ」とあり、広陵町の讃岐神社とも関連があると考えられる。翁は、このあたりに住んでいた人か。

また、姫に求婚した五人は、いずれも「日本書紀」などに名前が見える実在の人物との説も。かぐや姫の影が見え隠れする歴史書もある。

もし、この地で竹の中からかぐや姫が生まれたとしたら…。秋の夜、物語の夢とロマンは限りなく広がる。

## 讃岐神社



「竹取の翁」が名を「さぬきのみやつこ」ということから、これが大和国広瀬郡叡吉郷のことであるとして「竹取物語ゆかりの神社」と言われている。

### 「讃岐神社」・「竹取公園」へは…

近鉄大阪線高田駅より奈良交通バス  
竹取公園東行き乗車終下車徒歩  
又は、五位堂駅より奈良交通バス馬見北  
一丁目行き乗車終下車徒歩

物語の場所を訪れよう



◎広陵町地域振興課 ☎0745・55・1001